

2011年1月29日（土）公害・環境デー全体会

大阪市内初の太陽光市民共同発電所「ECO まち・さわやか発電所」

柏原 誠（ECOまちネットワーク・よどがわ事務局）

ecomachinet@gmail.com

1. ECOまちネットワーク・よどがわについて

- ・契機 大経大現代 GP「体験型環境まちづくり教育」のパートナーシップ組織として
- ・設立 2006年12月 → 2009年～（会費有料化）
- ・現会員 正会員（16名）・賛助会員（18名）・団体会員（6団体）
- ・主な活動

環境まちづくり活動（市民共同発電所運営、西淀川菜の花プロジェクト等）

各種イベントの開催・参加（近年の例）

環境スタディツアー富山、「ECOまち・さわやか発電所点灯式」

「コペンハーゲン COP15 報告会」「中島大水道の東淀川部分を歩く」

「東淀川区民まつり」（毎年）「映画『祝の島』上映会」（2011.2.26 予定）

機関誌発行（年4回）

2. ECOまち・さわやか発電所の概要

①設備

事業主体：社会福祉法人優光福祉会

→（管理委託）ECOまちネットワーク・よどがわ

場所：社会福祉法人・優光福祉会「さわやか苑」（東淀川区豊新2丁目）屋上

発電方式：太陽光発電（パネルはホンダ製）

資金調達方法：補助金＋市民寄付＋市民出資

発電能力：最大10kw/時

年間想定発電量：1万キロワット時（発電能力×1000時間，一般家庭3.5軒分）

年間CO2排出削減量：7.4トン（石炭火力発電1万キロワット時比）

②発電実績について（2009年12月～

2010年12月）

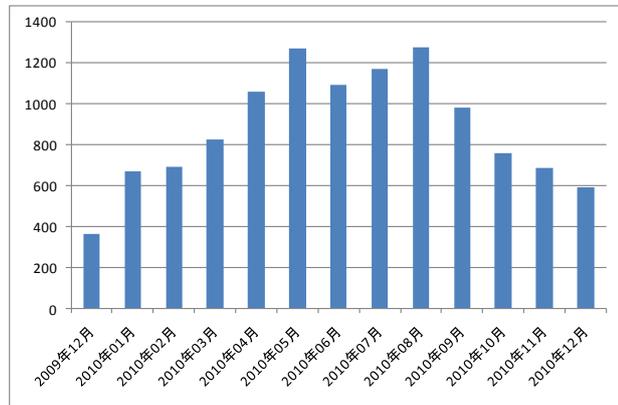
・ 想定 10000kwh

・ 運転開始からの累計

11447.38kwh

・ 2010年

11082.2kwh



③建設資金計画（概算）

【収入】

新エネルギー普及事業補助金（国）	400万	
大阪市補助金（市）	100万	
関電グリーン電力基金	59万	
市民出資（10万円×20口）	200万	
市民寄付（1000円/口）	161万	※寄付金実績（2010/5/12現在） 120万2358円（168人）
合計	920万	

【支出】

ホンダ製太陽電池パネル一式	819万
発電量表示板	59万
寄付募集チラシ印刷代	10万
保守費・その他雑費等	32万

合計	920万

※毎年 発電量(kwh)×12.6円が管理委託料として優光福祉会から支払われる。
→全額出資金返還へ。

3. 成果と課題

①成果

- ・市民がエネルギー生産者になること
- ・地域のエネルギー
- ・「大阪市内初」（大阪市環境局）
- ・施設職員の意識変化
- ・イベントでの活用（現地見学）
 - ・点灯式（2010/1）
 - ・まち歩きイベント「中島大水道の東淀川部分を歩く」（2010/5）
 - ・東淀川区民まつり（2010/9）

②課題

- ・設置後のマネージメント～出資金返還，維持管理などを担っていくこと
- ・設置場所を探す→自治体が公共施設などの空間を提供しては？
- ・環境保全，エネルギー問題を考えることに活用する
- ・情報発信
- ・ネットワークづくり

- ・ 事業をサポート・マネジメントするNPO，社会的企業などのネットワーク
- ・ 環境問題・エネルギー問題を施設を利用して進める地域のネットワーク
- ・ 全種類の再生可能エネルギーについての全量固定買取価格制度の導入

以上

＜第三種郵便物認可＞

市民共同発電所

地球温暖化防止めざし あなたも電力生産者に

太陽光など自然エネルギーを利用した市民共同発電所が注目を集めている。市民の出資をもとに、建物の屋根や屋上などを借りて発電施設を設置、売電収益を出資者に還元する仕組み。大阪や豊中、東大阪、枚方などの各市で、市民団体やNPOが取り組んでおり、地球温暖化防止策の一つとしても効果が期待されている。

大阪市東淀川区の介護老人福祉施設「さわやか苑」。3階建ての建物の屋上には、太陽光発電パネル80枚がずらりと並ぶ。

市民団体「ECOまちネット

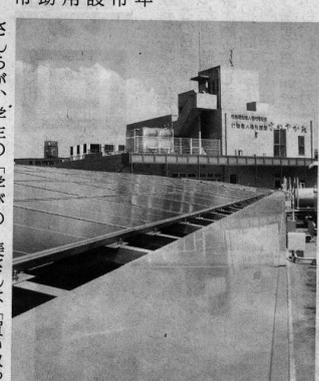
トワーク・よどがわ」が昨年12月から稼働を始めた大阪市内初の市民共同発電所の施設だ。約920万円の設置費用の約6割は国や市などの補助金、残りを会員の出資金や市民の寄付金などでまかなう。年間の計画発電量は1万5千キロワット。発電した電力は設置場所を提供しているさわやか苑に売却、収益を出資した市民に最長20年間で還元する。また、太陽光発電によって、温室効果ガスの二酸化炭素を年間7.4ト削減できるという。

市民共同発電所の設置は当初、地元の大阪経済大地域活性化支援センター長の柏原誠さんらから、学生の「学びの場」として計画。しかし、設備の設置場所が見つからなかった。

このため、環境問題やまちづくりにかかわる地域の団体や個人に呼びかけて、平成18年にネットワークを設立。地元の住民らを巻き込むことで、さわやか苑の協力が実現したという。

さわやか苑施設長の塚本暁美さんは「買い取っている電力は施設の使用量の10分の1程度ですが、施設の空閑に、毎日の発電量を必ず表示板があり、職員の節電への意識も高まりました。柏原さんは「さまざまな課題もあるが、活動を通じて一般の市民が太陽光などの再生可能エネルギーを使った電力の生産者になれることをより多くの人に知ってもらえれば」と話している。

出資し太陽光発電など設置、売電収益を還元



介護老人福祉施設「さわやか苑」の屋上に設置された太陽光発電パネル
＝大阪市東淀川区

(2010/8/4 産経新聞朝刊)